

平成26年度 沢地小学校区 第2回きずなづくりトークまとめ ～仮称：地域コミュニティ連絡会～

10月27日(月)に開催された「沢地小学校区第2回きずなづくりトーク～仮称：地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。まとめができましたので、送付いたします。
(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話983-2708)



ご参加ありがとうございました。

【当日参加団体一覧】

団体名		
富士ビレッジ自治会	交通安全母の会	沢地小学校 PTA
沢地町内会	体育振興会	北中学校 PTA
千枚原町内会	光ヶ丘保育園	富士見台子ども会
光ヶ丘1丁目町内会	千枚原千寿会	北上地区地域包括支援センター
光ヶ丘3丁目町内会	沢地幼稚園	
光ヶ丘県営住宅自治会	沢地幼稚園 PTA	

※当日参加者 17 名



会場アンケート：「テーマ別会議」「協議会設立」について、参加者の意向を伺いました。

【会場アンケート結果】

テーマ別会議	
①地域活動の効果的な周知方法を考えよう！	6人
②下校時の見守り体制について、サポーターの裾野を広げる方法を考えよう！	4人
③地域で子ども会をサポートしていく方法を考えよう！	5人
④その他	1人

※テーマ①と、②&③の2グループに分かれ話し合いました。(別紙「テーマ別会議まとめ」参照)

協議会設立の意向	
①議会に向けた取組みを進めたい	9人
②連絡会を継続したい	7人
③その他	0人
協議会設立を検討する場への参加意向	
①参加したい	12人
②参加できない	3人
③その他	0人

テーマ①「防災体制の構築について考えよう！（地域活動の効果的な周知方法を考えたい）」

（テーマ②班：参加人数7人）

●「地域活動の効果的な周知方法」の話し合いから、「沢地地区の防災体制の構築(情報の周知、地域の連携、避難所運営等)」へと話が発展しました。

保育園へ防災会議の通知が一切ない！いざという時とても不安

保育園が「災害弱者の避難所」であることが周知されていない・・・？

土砂災害で幼稚園舎が埋まる不安がある

光ヶ丘保育園

- ・園と地域のつながりが少ない
- ・地区防災の会議や訓練の情報ほしい
- アクション 園の活動内容を回覧板で地域に周知
- ・町内会からも情報を幼・保に回していく

光ヶ丘町内会

- ・保育園は「災害弱者中心の避難所」だと初めて知った
- ・園が「災害弱者の受け入れ」をするならば、光ヶ丘町内会全体の問題
- アクション 要援護者支援のことも含め、光ヶ丘町内会と保育園で話し合いたい

幼稚園

- ・緊急時はお寺に避難
- ・水・軽食・保温シートなどを備蓄
- ・通園範囲が広く宿泊の可能性あり
- アクション 緊急時の宿泊準備なども必要

中学校

- ・中学校の通学範囲は広い
- ・在校時災害発生⇒対応可
- ・学校外で災害発生⇒地域にお任せ

★訓練時中学生が大活躍！

- ・今年は事前に「訓練に参加しなければハンコを押さない」ことを町内で徹底/当日も放送⇒参加多数
- ・訓練時、備蓄品を搬出⇒中学生が運搬等のお手伝い⇒非常に戦力になった

証明書をもらいに来る中学生は年々増加

◎中学生の役割

- ・高齢者が多いので力仕事助かる
- ・小学校のことをよく知っているので、指示しやすい

今後、連携を深める必要あり

佐野地区防災会議

- ・年2回防災会議開催
- ・日中はお年寄り子どもが多い⇒保育園や老人会に会議通知がないのは問題

そもそも災害弱者に関する話し合いがない。
災害弱者の現状は？

- アクション 自治会連合会へ保育園や老人会の防災会議への参加要請を行なう(参加が新たなふれあいの機会になる)

連携が必要だが、まずは各町内会の体制作り

各町内会

- ・現在の防災会は町内会会長が「防災会会長+町内会会長」の2足のわらじ⇒うまく機能していない
- ・足元(町内)を固めてから校区の防災を考えるべきでは？

- ・要援護者台帳は町内会長と民生委員が把握
- ・要援護者多数⇒全員救助は無理
- ・本当に支援が必要な人を差別化
- ・支援にはある程度個人情報が必要

★今年から避難所運営専門の防災役員スタート！

- ・「避難所専門の防災役員」を各町内会から1～5人選出(現在20名ほど)
- ・防災委員で避難所運営訓練実施(校区の防災訓練とは別。体育館に宿泊)
- ・役員には最低3年間の任期を依頼
- ・防災会議・組織が整っていると安心

毎年、防災役員を増やし、避難所運営のプロ集団を結成していき

学校側の都合を知る防災委員がいないと混乱⇒小学校との連携が大切

★避難所の体制は？

- ・継続して役員が行けるとは限らない
- ・防災役員中心は最初の三日間程度
- ・被災後は、徐々に避難者中心の運営に
- ・土砂災害警戒地域の方は避難所生活の可能性が高い⇒該当者に運営サポートを依頼しては？
- ・最終的に避難者自身に避難所の運営をしてもらうことが目標

避難所運営のガイドライン(避難エリアや物資の保管場所等)決定と周知が必要

できるところから連携し、沢地地区の防災体制を強固なものにしていこう！

テーマ②「下校時の見守り体制(サポーターの裾野を広げる方法)」と③「子ども会をサポートしていく方法」について考えよう!

(テーマ②&③班: 参加人数 9人)

【見守り(パトロール)の現状】

- ・駅前交番が青パトで、防犯パトロールを行っているが、範囲が広く限界がある。
- ・登校時間の見守りボランティアはある程度いるが、下校時は少ない。

各町内に
見守りのサポート
体制を作りたい!



サポーターの裾野は

なぜ広まらないのか?

- ・現役世代、親世代は忙しい。
- ・面倒くさい。
- ・見守りサポーターの事を知らない人が多い。
- ・きっかけがない。関わる入り口を知らない。
- ・下校時間が学年によってばらばらで、時間が長いので、合わせるのが難しい。
- ・組織での引き継ぎができていない。役員の任期が短い(1年)ことが、一つの原因。

■パトロールのやりがいもある

- ・子どもから元気をもらえる。
- ・子どもからあいさつがある。うれしい。

★「やりがい」を皆に伝えよう!!

**見守りサポーターを広げる為に
どうしたらいいのか?**

★情報発信

- ・いろいろな形で広報活動して、1人でも多くの人に知ってもらおう。
- ・口コミ。知り合いから広めていく。
- ・学校行事や町内行事で伝える。
- ・地域や学校からのアナウンス
- ・まずは自分がやってみて、周りに伝える。

★各町内でサポート会員を募る

- ・家庭配布は回覧版(書面)だと見ない。人から人へ声かけで行うようにする。
- ・サポーターになりうる人達を集め説明会をする。
- ・孫や子どもがいなくても、子どもが好きな方や話が好きな方、誰でも参加できるようにPRする。

★パトロールのやり方を工夫する
⇒「ついで」のパトロール

- ・下校時(コース)の時間に合わせ、老人等ウォーキングで見守る。
- ・犬のお散歩仲間に広げる。夕方、散歩中に腕章をつけてもらうなど。
- ・あいさつ運動から徐々に広げていく。

★組織内の引き継ぎをしっかりと行う

- ・担当者(役員)による管理をしっかりと。

【子ども会の現状と意義】

- ・子ども会は子どもと地域の大人を結びつける為に必要な存在。
- ・子ども会へ市からの要請が多すぎ、負担。
- ・負担が多く、地域の協力がなくて成り立たない状況。

「子ども会のサポート体制」を考えていくと、「下校時の見守り体制」につながる。
⇒これらの活動を通じ、皆が顔を合わせることで、地域活動やボランティアの「効果的周知方法」の解決に繋がると思う。全てはつながっている。

**子ども会をサポートする為に
どうしたらいいのか?**



★情報交換

- ・包括支援センターでは予防講座をする時に、高齢者が集まるので、子ども会とコラボして高齢者にサポート講座を開催することができる。(特に北上地区は学びたいという高齢者が多い)←子どもや幼稚園児が、お年寄りと接する機会として活用したい。
- ・地域に手助けしたいと思っている人は多いが、活動を知らない。情報交流できる場や機会が必要。
- ・積極的にアプローチをしていこう!

★イベント・行事の合併

- ・老人会との交流
- ・学校の運動会と校区祭の合併
- ・子ども会と町内会の合同会合。話合いの場を持つ。

学校地域支援本部: 地域が学校を支援していく組織。各町内でサポートしていこうと話を進めている。皆が協力し合い連携していけば輪が広がり、色々な事ができる。本日のテーマも解決できると思う。